

# CA Clarity™ Agile

管理ガイド

リリース 13.3.00



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本CA株式会社（以下「CA」）により隨時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CAが知的財産権を有する機密情報であり、CAの事前の書面による承諾を受けて本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されているCAソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CAのすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CAに文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CAは本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、默示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CAはお客様または第三者に対し責任を負いません。CAがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はCAおよびCA Inc.です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14及び52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびにDFARS Section 252.227-7014(b)(3)または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

## CAへの連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。



# 目次

---

<b>第 1 章: セットアップ</b>	<b>7</b>
ユーザ.....	7
Salesforce.com でのユーザの追加 .....	7
ユーザの追加.....	8
通知の設定.....	9
ロール.....	9
ロールの管理.....	10
ロール階層の作成.....	10
製品.....	11
製品の管理.....	11
統合製品の管理方法.....	13
リリース.....	13
マスタリリース.....	14
製品リリース.....	15
マスタリリースの管理.....	15
製品リリースの管理.....	16
リリースバーンダウンチャートの再計算 .....	18
スプリント.....	19
スプリントの管理.....	19
かんばん.....	20
かんばんボードの設定.....	21
<b>第 2 章: 設定</b>	<b>23</b>
値をカスタマイズする方法.....	23
カスタム値の作成.....	24
リストビューの変更の発行 .....	25
ユーザストーリー、問題、およびカスタムオブジェクトの既定値の設定.....	25
属性のカスタマイズ方法.....	26
カスタム属性の作成.....	27
オブジェクトのカスタム属性の有効化または無効化 .....	28
カスタムステータス属性のマップ .....	28
リリースバーンダウンチャートの再計算 .....	29
詳細ページをカスタマイズする方法.....	30
ページへのセクションの追加.....	31

---

ページ上のセクションに対するフィールドの設定 .....	32
複数値ルックアップフィールドをセットアップする方法 .....	34
カスタム オブジェクトの作成 .....	35
ジャンクション オブジェクトの作成 .....	36
MVL の作成 .....	37
MVL の設定 .....	38
MVL の列の設定 .....	40
要件変更管理をセットアップする方法 .....	41
要件の承認プロセスのセットアップ .....	42
要件変更管理の有効化 .....	50
要件の変更管理の無効化 .....	50
結合されたレポートを生成するための設定 .....	51
<b>第 3 章: サードパーティ統合</b>	<b>53</b>
他の製品との統合の有効化 .....	53
他の製品との統合の無効化 .....	55
CA Clarity™ Agile 製品を Quality Center 製品にマップします。 .....	55
<b>第 4 章: データのインポート</b>	<b>57</b>
<b>付録 A: CA Clarity™ Agile プロファイル</b>	<b>59</b>
Agile/Requirements スーパーユーザ .....	59
Agile/Requirements ユーザ .....	60
Agile スーパーユーザ .....	61
Agile ユーザ .....	62
Requirements スーパーユーザ .....	62
Requirements ユーザ .....	63
<b>付録 B: CA Clarity™ Agile Team Edition から Enterprise Edition へのアップグレード</b>	<b>65</b>

# 第1章：セットアップ

---

Agile 方法論に従ってプロジェクトを管理できるよう、CA Clarity™ Agile でユーザ、ロール、製品およびリリースをセットアップします。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [ユーザ \(P. 7\)](#)
- [ロール \(P. 9\)](#)
- [製品 \(P. 11\)](#)
- [リリース \(P. 13\)](#)
- [スプリント \(P. 19\)](#)
- [かんばん \(P. 20\)](#)

## ユーザ

ユーザを Salesforce.com のユーザリストに追加して、CA Clarity™ Agile にユーザとして追加することができます。次にユーザをチームに追加し、ユーザストーリーとタスクを割り当てることができます。

[ユーザ] ページには、CA Clarity™ Agile で割り当てることができるユーザが表示されます。ユーザのリストは、すべてのユーザ（既定）またはプロジェクト別にフィルタリングできます。

### Salesforce.com でのユーザの追加

ユーザが利用できるユーザプロファイルは、Salesforce のライセンスに含まれています。

**注:** ユーザプロファイルの詳細については、「**管理ガイド**」のアクセス権に関する付録を参照してください。

システム管理者のみが、Salesforce.com にユーザを追加できます。

次の手順に従ってください：

1. [Setup] をクリックします。
2. 左ペインの [Administration Setup] から、[Manage Users] をクリックします。

3. [Add] をクリックするか、ユーザを編集して、ユーザ割り当てを設定します。  
[User] 一覧ページが表示されます。
4. [New] をクリックします。
5. 要求されたフィールドに情報を入力します。
6. 変更を保存します。

注: Salesforce.com でのユーザの設定に関する情報については、このページのヘルプをクリックしてください。

## ユーザの追加

ユーザは、以下のいずれかのプロファイルとして Salesforce.com に追加してから、チームに追加します。

- Agile ユーザ
- Requirements ユーザ
- Agile および Requirements ユーザ

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[組織] から [ユーザ] をクリックします。  
ユーザリストが表示されます。
2. [ユーザの追加] をクリックします。  
[ユーザの編集] ページが表示されます。
3. 以下のフィールドに入力します。

### Salesforce ユーザからユーザを追加

追加するユーザ名を定義します。複数のユーザを追加することができます。

#### Agile

ユーザストーリーとスプリントに対するアクセス権をユーザに持たせるかどうかを選択します。

#### 要件

要件に対するアクセス権をユーザに持たせるかどうかを選択します。

- 
4. 変更を保存します。

注: ユーザ リスト上の [詳細] リンクをクリックし、[ユーザの詳細] ページ上で詳細を編集できます。

## 通知の設定

ユーザがメンバになっている製品に関する変更について、そのユーザが通知を受け取るように、ユーザの通知を設定できます。ユーザは、自分がメンバになっている各製品について、自分自身の詳細と設定を編集できます。管理ユーザは、すべてのユーザの設定を編集できます。

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[組織] から [ユーザ] をクリックします。
2. ユーザの [詳細] リンクをクリックし、通知の適切な設定を行います。
3. 変更を保存します。

## ロール

ロールは、リソースが完了すると予想されるアクティビティを定義します。たとえば、ソフトウェアアプリケーション内の新規フィーチャーをテストするには品質アナリストが必要です。CA Clarity™ Agile で、ユーザに割り当てるロールを作成できます。また 2 つのアプリケーションが統合されている場合は、CA Clarity™ PPM からロールをダウンロードできます。

## ロールの管理

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[組織] から [ロール] をクリックします。  
[ロール] リストページが表示されます。
2. [新規ロール] をクリックします。
3. 要求されたフィールドに情報を入力します。
4. 変更を保存します。

**注:** ロールリスト上の [ロール ID] リンクをクリックし、[ロールの詳細] ページ上で詳細を編集できます。 ロールを削除するには、[ロールの詳細] ページ、または [ロール] リストから [詳細] をクリックします。

## ロール階層の作成

関連するロールをグループ化するロール階層を作成できます。

ロール階層の例を以下に示します。

- プロジェクトマネージャ
  - アーキテクト
  - 開発リード
  - 品質保証リード

**ベストプラクティス:** 階層には必要な数のレベルを作成できます。 レベルは、各ロールの親を選択したときに決定されます。 作成する階層が複雑になる場合は、階層の全体像を紙に描いてから作業を始めてください。

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[組織] から [ロール] をクリックします。
2. 親を割り当てるロールの [ロール ID] リンクをクリックします。  
[ロールの詳細] ページが表示されます。
3. [親ロール] フィールドで、ドロップダウンからロールを選択します。
4. 変更を保存します。

## 製品

[製品] ページにすべての製品がリスト表示されます。ビューをフィルタリングしてすべての製品を表示する（既定）か、前回作成された製品で並べ替えることができます。

CA Clarity™ Agile を CA Clarity™ PPM と統合している場合は、[製品] ページから統合製品を表示および管理することもできます。

詳細については、「統合ガイド」を参照してください。

製品の作成時に、オプションのプレフィックスを、製品に対して作成されるすべてのユーザストーリーおよびタスクの ID に追加できます。プレフィックスによって、ユーザストーリーまたはタスクに一意性が追加されます。プレフィックスは、英数字と特殊文字から構成される、6 文字以内の一意の文字列である必要があります。

プレフィックスに付属する数字は、ストーリーまたはタスクが作成されるたびに自動的に増分されます。たとえば、製品のプレフィックスが「Test」である場合、新規ユーザストーリーには ID が「Test-1」、「Test-2」のように自動的に割り当てられます。新しいタスクには、「Test-T0」、「Test-T1」のような ID が割り当てられます。製品の作成後は、プレフィックスを変更することはできません。

[製品] ページから、以下のタスクを実行できます。

- [製品の作成または編集 \(P. 11\)](#)
- 製品に関する詳細の表示
- [統合製品の管理 \(P. 13\)](#)

## 製品の管理

製品を作成して保存すると、その一意の ID が自動的に生成されます。この ID を使用して、CA Clarity™ Agile 製品を CA Clarity™ PPM プロジェクトにリンクできます。製品の作成後、製品プレフィックスを除く任意のプロパティを編集できます。製品を編集するには、[製品] ページから、編集する製品の横の [詳細] をクリックします。

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[アプリケーション] から [製品] をクリックします。
2. [新規製品] をクリックします。
3. 要求されたフィールドに情報を入力します。以下のフィールドには説明が必要です。

#### 製品オーナー

製品を所有するユーザまたはスーパーユーザを指定します。ユーザ名を選択すると、製品に関連するオブジェクトのスーパーユーザ権限がユーザに付与されます。製品オーナーが可能/不可能な操作は、以下のとおりです。

- マスタリリース、リリース、フィーチャー、要件、スプリント、チーム、およびユーザストーリーが作成できます。
- チームのメンバでなくても、プロダクトバックログを表示できます。
- コメント、添付ファイルの追加などの、バックログアイテムの管理ができます。
- システム管理者によってチームに追加されていない場合は、問題またはユーザストーリーに割り当てられることができません。

**要件:** システム管理者は、[管理] の下の [ユーザ] ページ上で Agile を選択する必要があります。

4. 変更を保存します。

**注:** 製品リスト上で、製品を編集するには、作業対象の製品の [詳細] リンクをクリックします。製品を削除するには、製品を選択し、[削除] をクリックします。

## 製品の削除

スーパーユーザ権限を持った管理者またはユーザは、製品を削除できます。たとえば、製品の作成に使用された情報が正確でなかった場合、管理者がその製品を削除できます。

製品が以下条件を満たす場合、その製品を削除できます。

- 製品に、リリース、スプリント、またはユーザストーリーが含まれていないこと
- 製品はアクティブでないこと

## 統合製品の管理方法

CA Clarity™ PPM と統合している場合、CA Clarity™ Agile の [製品] ページから統合製品を表示できます。これらの製品は、以下のように管理できます。

- ユーザを製品チームに割り当てます。
- スプリント、ユーザストーリーおよびタスクを作成します。
- リソースをユーザストーリーおよびタスクに割り当てます。
- 作業ログを使用して、タスクの進捗を報告します。

詳細については、「CA Clarity™ Agile 統合ガイド」を参照してください。

## リリース

CA Clarity™ Agile では、以下のタイプのリリースを作成できます。

- マスタリリース。複数の製品にまたがってユーザストーリーを追跡し、管理できます。
- 製品リリース。1つの製品に固有のユーザストーリーを追跡し、管理できます。

## マスタリリース

マスタリリースは、1つ以上の製品に関連付けることができます。製品をマスタリリースに関連付けると、複数の製品チームが1つのクロス製品リリースの一部として完了したユーザストーリーを追跡できます。

たとえば、会社Xは自社の3つの製品(A、B、およびC)を統合するリリースに取り組んでいます。統合する各製品のユーザストーリーとタスクが以下の製品チームに割り当てられています。

- 製品チームA。製品AとBを統合するユーザストーリーを完了します。
- 製品チームB。製品BとCを統合するユーザストーリーを完了します。
- 製品チームC。製品AとCを統合するユーザストーリーを完了します。

マスタリリースDが作成され、3つの製品すべてに関連付けられます。会社Xはマスタリリースを使用して、すべてのチームが完了したすべてのユーザストーリーおよびタスクの進捗状況を監視できます。製品メンバーは、ユーザストーリーから関連するマスタリリースを表示できます。

製品リリースをマスタリリースに割り当てるとき、製品リリース内のすべてのユーザストーリーが自動的にマスタリリースに割り当てられます。製品リリース内のすべてのユーザストーリーがマスタリリースに割り当たらないようにするには、個々のユーザストーリーをマスタリリースに関連付けます。製品がマスタリリースに関連付けられている限り、個別のユーザストーリーをマスタリリースに関連付けることができます。

1つの製品を複数のマスタリリースに関連付けることができます。

CA Clarity™ Agile 製品が Clarity プロジェクトに統合されている場合は、CA Clarity™ Agile で Clarity プロジェクトをマスタリリースに関連付けることができます。これにより、マスタリリースに割り当てられたすべてのユーザストーリーおよびタスクを Clarity から管理できるようになります。

## 製品リリース

リリース スケジュールを事前に決定する組織もあれば、スプリントの終了時にリリースを決定する組織もありますが、後者が適切です。CA Clarity™ Agile は両方の戦略をサポートします。

どちらのアプローチでも、リリースはスプリントの終了時に発生し、以前のすべてのリリースに含まれるすべてのスプリントで実装されたすべての機能が含まれます。そのため、リリースには 1 つ以上のスプリントが含まれます。

[リリース] ページにすべての製品リリースが一覧表示されます。ビューをフィルタリングして、すべてのリリースを表示（既定）、または作成された最後のリリースを表示できます。

CA Clarity™ PPM と統合している場合は、[リリース] ページから統合されているリリースを表示、管理することもできます。

詳細については、「統合ガイド」を参照してください。

[リリース] ページから、以下のタスクを実行できます。

- [リリースの管理 \(P. 16\)](#)
- 製品リリースに関する詳細の表示
- 製品リリースのプロパティの編集

## マスタリリースの管理

管理者として、マスタリリースを作成できます。

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[アプリケーション] から [マスタリリース] をクリックします。  
[マスタリリース] リストページが表示されます。
2. [新規マスタリリース] をクリックします。  
[新規マスタリリース] ポップアップが表示されます。
3. 必要なフィールドに入力します。以下のフィールドには説明が必要です。

## 関連製品

マスター リリースに関連付ける製品を定義します。製品をマスター リリースに関連付けると、その製品のユーザストーリーをマスター リリースに関連付けることができます。

4. 変更を保存します。

**注:** マスター リリースリスト上の [詳細] リンクをクリックし、[マスター リリースの詳細] ページ上で詳細を編集できます。削除するには、[マスター リリースの詳細] ページ、またはマスター リリースリストから [削除] をクリックします。

## 製品リリースの管理

製品リリースは、製品に固有のユーザストーリーから構成されます。製品リリース内のユーザストーリーは複数のスプリントを網羅しています。

**注:** また、[製品の詳細] ページで [新規リリース] をクリックして、新規リリースを作成することもできます。リリースを作成し保存する際に、その一意の ID が自動的に生成されます。この ID を使用して、このリリースを CA Clarity™ PPM にリンクできます。

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[アプリケーション] から、[リリース] をクリックします。
2. [新規リリース] をクリックします。  
[新規リリース] ポップアップが表示されます。
3. 要求されたフィールドに情報を入力します。以下のフィールドには説明が必要です。

### アクティブ

プロジェクトがアクティブかどうかを指定します。アクティブでないリリースは、CA Clarity™ Agile 全体でフィルタのオプションとして表示されません。

**既定値: Active**

## マスタリリース

このリリースを関連付けるマスタリリースを定義します。製品がマスタリリースと関連付けられている場合、このリリースのマスタリリースを選択できます。

製品リリースをマスタリリースに関連付けると、製品リリース内のすべての製品のすべてのユーザストーリーが、自動的にマスタリリースに関連付けられます。製品リリースのすべてのユーザストーリーが自動的にマスタリリースに割り当てられないようには、個々の製品をマスタリリースに関連付けます。その後、どの製品のどのユーザストーリーをマスタリリースに割り当てるかを選択できます。

## リリース日

リリースの配布日を指定します。リリース日と開始日は同じにできます。リリースのバーンダウンデータが最適になるようにするには、この日付がリリースの最後のスプリントの終了日と同じくらい遅いことが必要です。リリースの開始時点でのリリース日を知らないチームは、新規スプリントが追加されると、リリースを更新できます。

形式： mm/dd/yy

4. 変更を保存します。

**注:** 編集するには、作業対象のリリースの [詳細] リンクをクリックします。削除するには、リリースを選択し、[削除] をクリックします。

## リリースの削除

スーパーユーザ権限を持ったユーザは、リリースを削除できます。このアクションは、[リリースの詳細] ページで実行されます。削除が確定すると、キャンセルできません。

リリースを削除すると、以下のような結果になります。

- リリースに関連付けられたすべてのスプリントも削除されます。
- リリースおよびスプリントに割り当てられていたすべてのユーザストーリーは、割り当て解除されます。

- リリースとスプリントは、[表示] フィルタで表示されなくなります。
- 製品または製品の任意のオブジェクトとの関連付けに、リリースおよびスプリントを選択できなくなります。
- ユーザは、リリースまたはスプリントのチャートを表示できなくなります。

## リリース バーンダウンチャートの再計算

スプリント内のリリース バーンダウンチャートを再計算できます。ステータスのカスタム値をオープンまたはクローズにマップしており、チャート用に時間またはポイントをバーンダウンする必要がある場合は、再計算をお勧めします。

ユーザストーリーまたは要件のカスタムステータスが変更されると、チャート内の実際の合計ポイントおよび合計時間が変更されます。たとえば、あるユーザストーリーに対して「完了」というステータス値がオープンであるとみなします。ステータスを「クローズ」に変更すると、スプリントの再計算によって、ユーザストーリーに関連付けられている時間とポイントがバーンダウンされます。再計算では、スプリント内のユーザストーリーの最新のステータスが使用されます。

ユーザストーリーの残りのポイントは、クローズされたストーリーのポイントを引くことによって計算されます。タスクに関してログに記録された時間を引くことで、タスク上の残りのポイントが計算されます。バーンダウンチャートの再計算は、アクティブなスプリント内でのみ、かつリリース バーンダウンに含まれるユーザストーリー数が 1000 未満である場合のみ可能です。

以下の行が再計算されます。

- バーンアップ行 - スプリントのゴール達成に必要な作業ユニットの日次増加率を示します。
- 見積もり行 - スプリントの元の見積もり値（時間）
- 完了時間行 - スプリントに対して完了時間数
- ベロシティチャート内のベロシティ

## スプリント

[スプリント] ページには、すべての製品に対して作成されたアクティブなすべてのスプリントがリスト表示されます。また、ビューをフィルタリングして、作成された最後のスプリントで並べ替えられたスプリントリストを表示できます。このフィルタ選択は保存され、ユーザが変更するまで、それ以降のページの表示で使用されます。

[スプリント] ページから、以下を実行できます。

- [スプリントの管理 \(P. 19\)](#)
- スプリントの詳細の表示
- [スプリントのプロパティの編集 \(P. 19\)](#)
- [スプリントの削除 \(P. 20\)](#)

### スプリントの管理

スプリントが完了していない場合、スーパーユーザ権限を持つユーザは、スプリントの開始日および終了日を含め、スプリントの詳細を編集できます。ユーザがスプリント日付を変更する場合、バーンダウンとベロシティが再計算されます。[スプリントの詳細] および [ダッシュボード] ページ上のチャートも更新されます。[スプリント] ページ上でスプリントを編集するには、編集するスプリント名の隣の[詳細]をクリックします。

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[アプリケーション] から [スプリント] をクリックします。  
[スプリント] ページが表示されます。
2. [新規スプリント] をクリックします。
3. 要求されたフィールドに情報を入力します。以下のフィールドには説明が必要です。

#### ゴール

スプリントの予測結果を指定します。

制限 : 3000 文字

### リスク

スプリントの成功または結果に影響する要因を指定します。

制限： 2000 文字

4. 変更を保存します。

**注:** 編集するには、作業対象のスプリントの [詳細] リンクをクリックします。

### スプリントの削除

スーパーユーザ権限を持ったユーザ、または製品オーナーのみがスプリントを削除できます（他のユーザには、[削除] ボタンは表示されません）。スプリントを削除すると、以下のような影響があります。

- スプリントに固有なすべてのスプリントデータが削除されます。
- スプリントに割り当てられていたすべてのユーザストーリーが割り当て解除されます。
- スプリントに割り当てられていたチームが削除されます。
- スプリントは、バーンダウンチャートレンダリングのリストには表示されません。
- スプリントは、バーンダウンチャートには表示されません。

## かんばん

かんばんは、ワークフローの手順をすべて視覚化し、進行中の作業項目数を削減することに重点を置きます。かんばんは、[かんばんボード] というボードを使用して実装されます。プロジェクトの進捗は [かんばんボード] 上で追跡されます。[かんばんボード] にはプロジェクトのライフサイクルのさまざまな段階に相当するステータス レーンがあります。プロジェクトが進行するにつれて、プロジェクトの作業項目はあるレーンから別のレーンに移ります。

## かんばんボードの設定

かんばんボードを設定すると、かんばんの方法論を利用してプロジェクトを管理できます。リリース用のかんばんボードは、プロジェクトの進捗を追跡し、あらゆる障害物の識別を支援します。[かんばんボード]を作成するには、以下の2つの属性を設定します。

### ステータス レーン

ステータス レーンは、プロジェクトのライフサイクルの段階を表します。ユーザストーリーのステータスの1つにステータス レーンをマップします。

### WIP 上限

いつでも処理できるユーザストーリーの最大数。各ステータス レーンの WIP 上限を定義できます。

たとえば、Michael は、以下のステータス レーンおよび WIP 上限を持つ新しいかんばんボードを設定します。

ステータス レーン	説明	WIP 上限
計画済み	開発準備ができているユーザストーリー。	5
開発	開発中のユーザストーリー。	3
テスト	テスト下の開発済みユーザストーリー。	2
完了	終了する準備ができているユーザストーリー。	5

Michael は、作業するチームのかんばんボードに、バックログからユーザストーリーを引き取ることができます。

次の手順に従ってください::

1. [管理] をクリックし、[アプリケーション] から、[リリース] をクリックします。
2. [製品] ドロップダウンリストから製品名を選択します。
3. かんばんボードを作成するリリースの [詳細] をクリックします。
4. [かんばんボード] セクションまでスクロールし、[新規かんばんボード] をクリックします。
5. 要求された情報を入力します。
6. 変更を保存します。

また、かんばんリストページから [かんばんボード] を作成できます。

次の手順に従ってください::

1. [管理] をクリックし、[アプリケーション] から、[かんばんボード] をクリックします。
2. [新規かんばんボード] をクリックします。
3. 要求された情報を入力します。
4. 変更を保存します。

# 第2章：設定

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

- [値をカスタマイズする方法 \(P. 23\)](#)
- [属性のカスタマイズ方法 \(P. 26\)](#)
- [詳細ページをカスタマイズする方法 \(P. 30\)](#)
- [複数値ルックアップフィールドをセットアップする方法 \(P. 34\)](#)
- [要件変更管理をセットアップする方法 \(P. 41\)](#)
- [結合されたレポートを生成するための設定 \(P. 51\)](#)

## 値をカスタマイズする方法

いくつかの値は、すべての製品に既定で用意されています。システム管理者は、アプリケーションレベルでオブジェクトフィールドに対する新しいカスタム値を作成することもできます。作成したカスタム値は、ドロップダウンリストから選択できる値として適切なページに表示されます。

ほとんどのカスタマイズは、Salesforce.com セットアップページにリンクする [セットアップ] リンクをクリックして行います。

以下は、自動化できるフィールドの例です。

- カテゴリ
- 要件の状態
- 製品状態
- 優先度。製品に関連付けられた問題、ユーザストーリー、およびエピックの値が含まれます。
- ステータス。製品に関連付けられた問題、タスク、ユーザストーリー、およびエピックの値が含まれます。

カスタム値は、以下の方法で設定できます。

- [値の特定の属性を編集する。 \(P. 24\)](#)
- 値を他の値に置き換える。

- [既定値を指定する。 \(P. 25\)](#)
- 翻訳ワークベンチを使用して値の名前を変更する。
- リスト内の値の順序を変更する。
- 値を削除する。
- 値をすべてのサポート対象言語に変換する。

### ベストプラクティス：

- 既存の属性を編集してラベルを変更する代わりに、 [管理者設定] メニューの翻訳ワークベンチを使用して値の名前を（英語に）変更します。
- バーンダウンチャートとベロシティチャートには、クローズと同等の値が必要です。新しい値を作成し、 [管理] メニューの [ステータスマッピング] を使用してステータスをマップできます。

### 詳細:

[属性のカスタマイズ方法 \(P. 26\)](#)

[オブジェクトのカスタム属性の有効化または無効化 \(P. 28\)](#)

[カスタム値の作成 \(P. 24\)](#)

## カスタム値の作成

カスタム値の作成方法の詳細については、*Salesforce.com* の「Help & Training」を参照してください。このマニュアルは、[セットアップ] リンクをクリックして [Personal Setup] を表示し、[Help] リンクをクリックすると表示されます。

### 次の手順に従ってください:

1. CA Clarity™ Agile のヘッダ領域で、[セットアップ] リンクをクリックします。  
*Salesforce.com* の [Personal Setup] ページが表示されます。
2. [App Setup] メニューから [Create] をクリックし、[Objects] を選択します。  
[Custom Objects] ページが表示されます。

3. カスタマイズするオブジェクト名（たとえば、[User Story]）をクリックします。  
[Custom Objects] ページが表示されます。
4. カスタムフィールドおよび関係のセクションで、値をカスタマイズするフィールドラベルにスクロールします。
5. フィールドラベルをクリックします。  
[Custom Field] ページが表示されます。
6. [Picklist Values] セクションにスクロールし、必要に応じて値をカスタマイズします。

## リストビューの変更の発行

リストビューに対して行った変更を発行して、組織内の全ユーザが参照できるようにすることができます。これらの変更には、オブジェクトまたは属性ラベル、選択リストラベル、および翻訳の変更、または、カスタム属性の削除などが含まれます。

次の手順に従ってください:

1. システム管理者として Salesforce.com にログインします。
2. [Administration] メニューから [List Views Publishing] ページを開きます。
3. [Publish] をクリックします。

リストビューに加えた変更が、組織内の他のユーザに配布されます。

## ユーザストーリー、問題、およびカスタムオブジェクトの既定値の設定

ユーザストーリー、問題、または任意のカスタム CA Clarity™ Agile オブジェクトの既定値を設定できます。

次の手順に従ってください:

1. CA Clarity™ Agile のヘッダ領域で、[セットアップ] リンクをクリックします。

Salesforce.com の [Personal Setup] ページが表示されます。

2. [App Setup] メニューから [Create] をクリックし、[Objects] を選択します。  
[Custom Objects] ページが表示されます。
3. 既定の設定をするオブジェクト名（たとえば [User Story]）をクリックします。  
ユーザストーリーの [Custom Object] ページが表示されます。
4. [Record Types] セクションにスクロールし、[User Story] レコードタイプのラベルをクリックします。  
[Record Type] ページが表示されます。
5. 既定値を選択する選択リストフィールドの横の [Edit] をクリックします。
6. [Default] ドロップダウンから値を選択して保存します。

## 属性のカスタマイズ方法

システム管理者は [セットアップ] ページで、アプリケーションレベルで CA Clarity™ Agile オブジェクトのカスタム属性を作成できます。たとえば、新しい [ステータス] フィールドをユーザストーリー オブジェクトに追加できます。

作成したカスタム属性は、既定ではすべての製品で利用可能です。特定の製品で属性を有効にすると、その属性はすべての製品で利用できなくなります。他の製品でその属性を使用する必要がある場合は、カスタム属性のページでその属性を他の製品に追加します。

1つの製品の1つのオブジェクトあたり最大で 25 個のカスタム属性を作成できます。カスタム属性は以下のオブジェクトに追加できます。

- 承認基準
- エピック
- 問題
- マスター リリース
- リリース
- スプリント

- ストーリー依存性
- タスク
- チーム
- チーム メンバ
- テーマ
- ユーザストーリー

## カスタム属性の作成

カスタム属性の作成方法の詳細については、*Salesforce.com* の「ヘルプ & レーニング」を参照してください。このマニュアルは、[セットアップ] リンクをクリックして [Personal Setup] を表示し、[Help] リンクをクリックすると表示されます。

次の手順に従ってください：

1. CA Clarity™ Agile のヘッダ領域で、[セットアップ] リンクをクリックします。  
*Salesforce.com* の [Personal Setup] ページが表示されます。
2. [App Setup] メニューから [Create] をクリックし、[Objects] を選択します。  
[Custom Objects] ページが表示されます。
3. 属性をカスタマイズするオブジェクト名をクリックします。  
[Custom Objects] ページが表示されます。
4. カスタムフィールドおよび関係のセクションにスクロールし、必要に応じてフィールドをカスタマイズします。

**ベストプラクティス：**ユーザストーリーまたは要件オブジェクトの [Status] 値用にカスタム属性を作成する場合は、カスタムステータスがオープンまたはクローズの状態かどうかを指定します。[管理] メニューから [「ステータスマッピング \(P. 28\)」](#) ページを使用して、カスタムステータスを指定できます。ステータスをオープンまたはクローズに指定することにより、バーンダウンチャートおよびベロシティチャートの正確性が保証されます。

## オブジェクトのカスタム属性の有効化または無効化

カスタム属性を特定の製品で有効にすると、その属性はすべての製品で利用可能ではなくなります。他の製品でその属性を使用する必要がある場合は、その属性を他の製品で有効にします。

オブジェクトからカスタム属性を削除または無効化するには、属性を選択して [削除] をクリックします。

次の手順に従ってください:

1. [管理] メニューをクリックし、[カスタム属性] を選択します。  
カスタム属性のページが表示されます。
2. カスタム属性を有効にする製品およびオブジェクトを選択します。  
そのオブジェクトに対して有効な既存のカスタム属性が表示されます。
3. [新規カスタムフィールド] をクリックします。  
ポップアップが表示されます。
4. 既存のカスタムフィールド名を選択して保存します。  
選択したフィールドがフィールドラベルのリストに表示されます。

## カスタムステータス属性のマップ

ユーザストーリーまたは問題のオブジェクトに対するカスタムステータスを作成した場合は、オブジェクトの状態がオープンであるかクローズであるかを示すステータスを指定します。バーンダウンおよびベロシティのチャートの正確性はオブジェクトのステータスに依存します。

たとえば、「Done」という新規ステータスを作成した場合、ステータスが「クローズ」を意味するように指定することで、チャートでオブジェクトの作業の完了時間をバーンダウンさせることができます。

次の手順に従ってください:

1. [管理] を開き、[設定] の下の [ステータスマッピング] をクリックします。  
[ステータスマッピング] ページが開き、カスタムステータス属性のリストが表示されます。
2. マップする値について [マップ済みの値] フィールドをクリックし、プルダウンリストから [オープン] または [クローズ] を選択します。
3. [保存] をクリックします。

**重要:** 現在のスプリントにユーザストーリーおよび問題が存在する場合は、[チャートの再計算] をクリックしてスプリント情報をリフレッシュし、バーンダウンおよびベロシティのチャートの再入力を行います。

## リリースバーンダウンチャートの再計算

スプリント内のリリースバーンダウンチャートを再計算できます。ステータスのカスタム値をオープンまたはクローズにマップしており、チャート用に時間またはポイントをバーンダウンする必要がある場合は、再計算をお勧めします。

ユーザストーリーまたは要件のカスタムステータスが変更されると、チャート内の実際の合計ポイントおよび合計時間が変更されます。たとえば、あるユーザストーリーに対して [完了] というステータス値がオープンであるとみなします。ステータスを [クローズ] に変更すると、スプリントの再計算によって、ユーザストーリーに関連付けられている時間とポイントがバーンダウンされます。再計算では、スプリント内のユーザストーリーの最新のステータスが使用されます。

ユーザストーリーの残りのポイントは、クローズされたストーリーのポイントを引くことによって計算されます。タスクに関してログに記録された時間を引くことで、タスク上の残りのポイントが計算されます。バーンダウンチャートの再計算は、アクティブなスプリント内でのみ、かつリリースバーンダウンに含まれるユーザストーリー数が 1000 未満である場合のみ可能です。

以下の行が再計算されます。

- バーンアップ行 - スプリントのゴール達成に必要な作業ユニットの日次増加率を示します。
- 見積もり行 - スプリントの元の見積もり値 (時間)
- 完了時間行 - スプリントに対して完了時間数
- ベロシティチャート内のベロシティ

## [詳細ページをカスタマイズする方法](#)

詳細ページの以下のプロパティを追加、編集、削除することによって、ページの外観を変更できます。

- セクション
- フィールド
- セクション見出し

変更はシステム レベルで行われ、すべてのユーザに適用されます。セクションとフィールドの名前はビジネスニーズに合わせて変更できます。削除または名前変更された既定のセクションやフィールドを元に戻したい場合は、それらを復元できます。

変更できるのは、詳細ページのプロパティ部分のみです。 詳細ページ上の関連するリストセクションは、プロパティの一部でないので変更できません。以下のリストでは、設定できる詳細ページについて説明します。

- ユーザストーリー
- タスク
- 問題
- スプリント
- 製品
- リリース
- エピック
- ソース
- 製品
- リリース
- 要件
- 機能

スーパーユーザまたはシステム管理者のみが [プロパティ] ページをカスタマイズできます。 Agile のスーパーユーザは Agile のページのみ、 Requirements のスーパーユーザは Requirements のページのみをカスタマイズできます。 Agile/Requirements のスーパーユーザは Agile と Requirements の両方のページをカスタマイズできます。

## ページへのセクションの追加

次の手順に従ってください:

1. [管理] メニューに移動し、 [設定] メニューから [プロパティ表示] を選択します。
2. [表示] フィールドで、設定するプロパティビューを選択します。  
プロパティビューのセクションがリストに表示されます。

3. [新規セクション] をクリックし、以下のフィールドに入力します。

### セクション ID

セクションの一意の識別子を英数字で指定します。 数字、文字、およびアンダーラインのみを使用して ID を作成します。

### ヘッダ ラベル

セクションのヘッダに表示される名前を指定します。 名前を指定しなかった場合、セクションのフィールドはセクションを示すマークがない状態でページに表示されます。

### 単一の列レイアウトを使用

セクションで使用するレイアウトを 1 列と 2 列のどちらにするかを指定します。

既定値： 未選択

### 位置

他のセクションに対するこのセクションの位置を指定します。 各セクションは割り当てられた順序で表示されます。 位置を選択しなかった場合、このセクションにはこのページで選択できる最大値が割り当てられます。

4. [保存] をクリックします。

## ページ上のセクションに対するフィールドの設定

次の手順に従ってください：

1. [管理] メニューに移動し、[設定] メニューから [プロパティ表示] を選択します。
2. [表示] フィールドで、設定するプロパティ ビューを選択します。  
ページのプロパティ ビューのセクションがリストに表示されます。
3. [レイアウトの設定] をクリックします。  
ウィンドウが開き、表示されているページのセクションのリストが表示されます。 各セクションには、利用可能フィールドと選択済みフィールドのリスト ボックスが含まれています。

4. 各セクションで、[利用可能] リストボックスから表示するフィールドを選択し、[選択済み] リストボックスにドラッグします。  
1つのフィールドを1つのページセクションにのみ表示できます。あるセクションでフィールドを選択すると、そのフィールドは他のセクションで利用できなくなり、他のセクション用のリストボックスに表示されなくなります。
5. [保存] をクリックします。

## 複数値ロックアップ フィールドをセットアップする方法

[MVL] (複数値のロックアップ) フィールドを使って、複数のフィールド値を持つカスタム オブジェクトを CA Clarity™ Agile オブジェクトにリンクすることができます。

たとえば、「リスク」というカスタム オブジェクトを作成します。このオブジェクトは、関連する開発リスクとその重大度に関する製品関連情報を保持します。このカスタム オブジェクトをユーザストーリーにリンクして、より包括的な情報を提供することができます。

[MVL] フィールドを次のビルトイン オブジェクトにリンクできます。

- ユーザストーリー
- 問題
- タスク
- 要件
- 製品
- リリース
- Sprint
- ソース
- エピック
- フィーチャー

MVL フィールドをセットアップするには、以下のタスクを実行します。

1. [カスタム オブジェクトの作成](#) (P. 35)
2. [ジャンクション オブジェクトの作成](#) (P. 36)
3. [MVL の作成](#) (P. 37)
4. [MVL の設定](#) (P. 38)
5. [MVL での列の設定](#) (P. 40)

## カスタム オブジェクトの作成

カスタム オブジェクトの作成方法の詳細については、*Salesforce.com の「Help & Training」* を参照してください。このマニュアルは、[セットアップ] リンクをクリックして [Personal Setup] を表示し、[Help] リンクをクリックすると表示されます。

たとえば、「説明」、「重大度」、[製品] というフィールドを持つ「リスク」というカスタム オブジェクトを作成します。

次の手順に従ってください:

1. CA Clarity™ Agile のヘッダ領域で、[セットアップ] リンクをクリックします。  
Salesforce.com の [Personal Setup] ページが表示されます。
2. [App Setup] メニューから [Create] をクリックし、[Objects] を選択します。  
[Custom Objects] ページが表示されます。
3. [New Custom Object] をクリックします。
4. 以下のフィールドに入力します。

ラベル

Plural Labels

Data type

5. [保存] をクリックします。
6. カスタム フィールドおよび関係のセクションにスクロールし、必要に応じてフィールドをカスタマイズします。
7. 変更を保存します。

## ジャンクション オブジェクトの作成

ジャンクション オブジェクトは、あるカスタム オブジェクトを別のビルトイン オブジェクトにリンクすることができるカスタム オブジェクトです。たとえば、「UserStory\_Risk」というジャンクション オブジェクトを作成し、カスタム オブジェクト「リスク」をユーザ ストーリーにリンクします。

次の手順に従ってください:

1. CA Clarity™ Agile のヘッダ領域で、[セットアップ] リンクをクリックします。  
Salesforce.com の [Personal Setup] ページが表示されます。
2. [App Setup] メニューから [Create] をクリックし、[Objects] を選択します。  
[Custom Objects] ページが表示されます。
3. [New Custom Object] をクリックします。
4. 以下のフィールドに入力します。

ラベル

Plural Labels

Data type

5. [保存] をクリックします。
6. [Custom Fields & Relationships] セクションにスクロールします。
7. 以下の 2 つのカスタム フィールドを作成し、必要に応じてカスタマイズします。
  - 作成したカスタム オブジェクトに関連付けられているルックアップデータ型フィールドたとえば、以前に作成したカスタム オブジェクト「リスク」に関連付けられているカスタム フィールド「リスク」を作成します。
  - ユーザ ストーリー オブジェクトに関連付けられているルックアップデータ型フィールド
8. 変更を保存します。

## MVL の作成

複数値のルックアップにより、複数の値を持つカスタム オブジェクトを設定し、ビルトイン オブジェクトと一緒に表示することができます。

たとえば、ユーザストーリーを編集する場合、[リスク] フィールドが入力に使用できます。

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[設定] から [カスタム MVL] をクリックします。
2. MVL を作成する [レコードタイプ] を選択します。  
たとえば、「リスク」に MVL を設定する場合、ユーザストーリーを [レコードタイプ] として選択します。
3. [新規 MVL] をクリックします。
4. 以下のフィールドに入力します。

### [セカンダリ オブジェクト]

レコードタイプに関連付けられたカスタム オブジェクト。たとえば、レコードタイプのユーザストーリーに対して「リスク」を選択します。

### [ジャンクション オブジェクト]

[レコードタイプ] と [セカンダリ オブジェクト] の関係を格納するカスタム オブジェクト名を選択します。たとえば、`UserStory_Risk` オブジェクトを選択します。

### プライマリ フィールド

ジャンクション オブジェクトが関連付けられているプライマリ フィールドを選択します。たとえば、プライマリ フィールドとして、[ユーザストーリー] を選択します。

### セカンダリ フィールド

ジャンクション オブジェクトが関連付けられているセカンダリ フィールドを選択します。たとえば、「リスク」をセカンダリ フィールドとして選択します。

### [MVL 表示フィールド列]

セカンダリ オブジェクトのフィールドを選択します。[テキスト]のみを選択し、リストタイプ フィールドを選択できます。

5. 変更を保存します。

関連するオブジェクトを設定すると、MVL が作成され、使用可能になります。

**注:** [管理] をクリックし、[設定] から [プロパティ ビュー] をクリックし、[custom\_mvl] セクションがオブジェクト プロパティ ビューで使用できることを確認します。

## MVL の設定

既定では、MVL は、設定されたオブジェクトで利用できるすべての値を返します。関連付けられたレコード タイプに関連する値のみを表示するために、MVL を設定できます。

たとえば、ユーザストーリーに対して「リスク」 MVL を設定している場合、ユーザストーリーが関連付けられている製品にかかわらず、「リスク」 MVL には使用可能なすべてのリスクが表示されます。ただし、ユーザストーリーが関係する製品に関連付けられているリスクを表示するように、「リスク」 MVL を設定できます。

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[設定] から [カスタム MVL] をクリックします。
2. レコード タイプを選択します。設定する MVL の [編集] をクリックします。

3. 適切なパラメータを使用して、[利用可能な SOQL] を変更します。  
たとえば、Risk\_\_c から Id、Name、Description を選択します。ここで、  
product\_\_c = : productid です。

パラメータは以下のオブジェクトに対して使用できます。

#### ユーザストーリー

:id, :productid

#### 問題

:id, :productid

#### タスク

:id, :userstoryid

#### 要件

:id

#### 製品

:id

#### リリース

:id, :productid

#### Sprint

:id, :productid, :releaseid

#### ソース

:id

4. 変更を保存します。

## MVL の列の設定

MVL の列が作成された順番で表示されます。ただし、列の順番を設定し直したり、列の幅を調整することもできます。

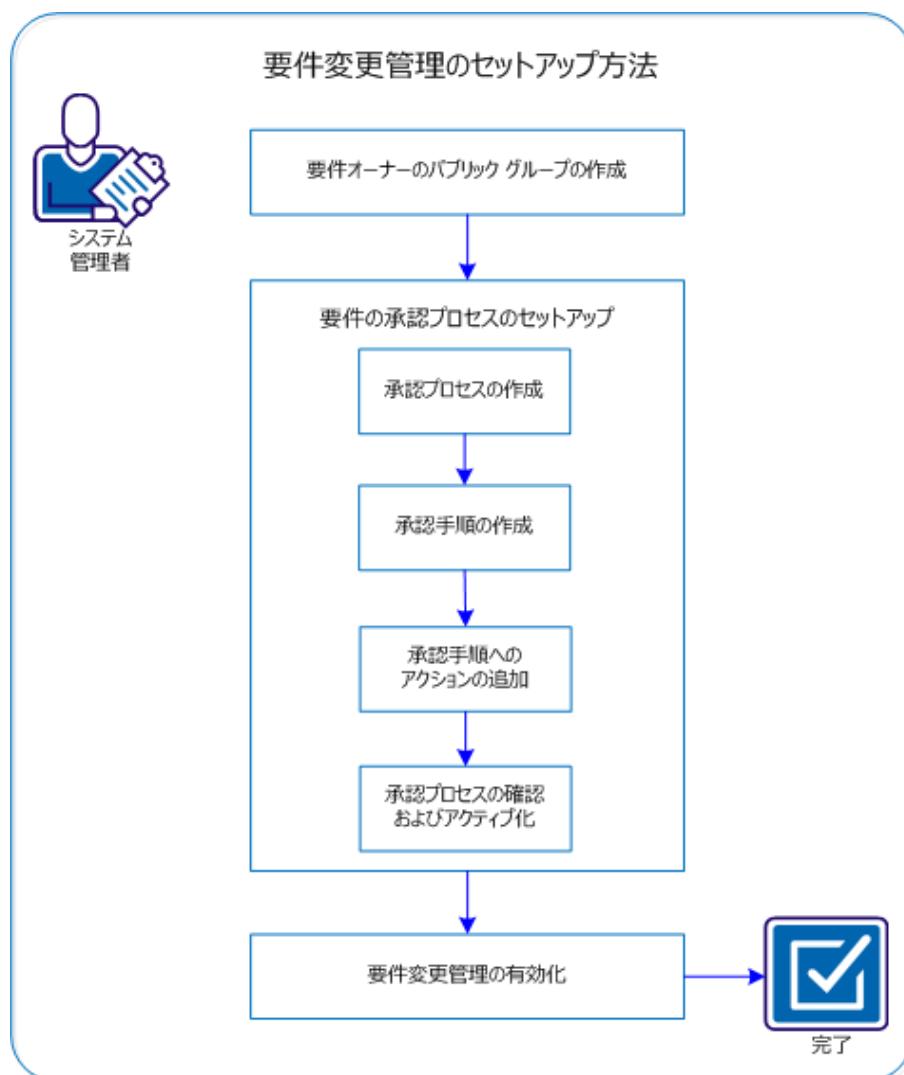
次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[設定] から [カスタム MVL] をクリックします。
2. [レコード タイプ] を選択し、設定する MVL の [表示] をクリックします。
3. MVL 表示フィールド列の下に表示されている列の幅と順番をインライン編集します。
4. 変更を保存します。

## 要件変更管理をセットアップする方法

要件変更管理（RCM）は、製品オーナーが製品要件のドラフトを作成し、更新するための承認プロセスを管理する機能を提供します。要件をサブミットするユーザは「要件オーナー」と呼ばれます。システム管理者として、要件ドラフト用の承認プロセスをセットアップし、要件の変更管理を有効にできます。

以下の図は、システム管理者がどのように要件変更管理をセットアップできるかを示します。



RCM をセットアップするには、以下の手順に従います。

1. [要件オーナーのパブリック グループを作成します](#) (P. 42)。
2. [要件の承認プロセスをセットアップします](#) (P. 42)。
3. [要件変更管理を有効化します](#) (P. 50)。

### 要件の承認プロセスのセットアップ<sup>¶</sup>

RCM で、要件オーナーは、要件リクエストを承認するプロセスに従います。このプロセスは、要件オーナーが要件をサブミットする際に発生するイベントを定義します。たとえば、要件を承認または拒否するために、2つのアクションと共に1つの定義済み手順を含む承認プロセスを Salesforce.com でセットアップします。

承認プロセスをセットアップするには、以下の手順に従います。

1. [承認プロセスを作成します](#) (P. 43)。
2. [承認手順を作成します](#) (P. 46)。
3. [承認手順へのアクションを追加します](#) (P. 48)。
4. [承認プロセスを確認およびアクティブ化します](#) (P. 49)。

### 要件オーナーのパブリック グループの作成

RCM プロセスに参加でき、要件をサブミットできるユーザを含むグループを作成します。このグループはパブリック グループと呼ばれます。たとえば、承認用の新しい要件をサブミットできるように、パブリック グループにすべての製品ユーザを含めます。グループに含まれていないユーザは、承認用の要件をサブミットできません。

次の手順に従ってください:

1. システム管理者として Salesforce.com にログインし、[Setup] をクリックします。
2. [Administration Setup] から [Manage Users] を展開し、[Public Groups] をクリックします。

3. [New] をクリックして新しいパブリック グループを作成します。
4. [Label] フィールドに「AllInternalSubmitters」を入力します。  
[Group Name] フィールドに自動入力されます。

**重要:** グループ名が AllInternalSubmitters であることを確認します。ユーザを追加すると、このグループに自動的に追加されるように CA Clarity™ Agile がセットアップされます。ユーザが別の名前を指定する場合、新規ユーザはグループに自動的に追加されません。

5. [Available Members] リストから既存ユーザをすべて選択します。
6. [Add] をクリックして、ユーザ名を [Selected] リストに移動します。
7. 変更を保存します。

要件承認リクエストをサブミットできるユーザのパブリック グループを作成しました。

## 承認プロセスの作成

承認または拒否される前に要件リクエストがたどる手順を定義するため、承認プロセスを作成できます。

**重要:** これらの手順でリスト表示されるフィールドおよびオプションをすべて設定します。これらの手順に表示される他のフィールドのデフォルト値を保持します。

次の手順に従ってください:

1. システム管理者として Salesforce.com にログインし、[Setup] をクリックします。  
Salesforce.com のセットアップページが表示されます。
2. [App Setup]、[Create]、[Workflows & Approvals]、[Approval Process] を展開します。
3. 承認プロセスを作成するオブジェクトとして、[Requirement] を選択します。
4. [Create New Approval Process] をクリックします。

5. ドロップダウンリストから [Use Standard Setup] ウィザードを選択します。
6. [Process Name] フィールドに「Change Management Process」と入力します。
7. [Next] をクリックします。
8. すべての要件がすべて同じプロセスに従っているため、もう一度 [Next] をクリックして、基準の設定をスキップします。
9. [Record Editability Properties] に移動し、[Administrators] を選択します。さもないと、現在割り当てられている承認者が、承認プロセス中にレコードを編集できます。
10. [Next] をクリックし、次に、[Email Template] セクションで Lookup アイコンをクリックします。
11. プルダウンリストから [Scrum Templates] を選択します。
12. [Search Results] から「RequirementsApprovalEmailTemplate」をクリックし [Next] をクリックします。
13. 以下のリスト内のフィールドを選択し、[Add] をクリックします。
  - 実際コスト
  - 実際工数（時間単位）
  - 年齢
  - カテゴリ
  - クローズ日
  - 複雑度
  - 信頼度レベル
  - 作成者
  - 現在のバージョン番号
  - 説明
  - 財務的メリット
  - 親要件（この名前を持つ 2 つのフィールドの 1 番目を選択）
  - 計画コスト
  - 計画工数（時間単位）
  - 計画コスト vs 実際コスト

- 計画工数 vs 実際工数（時間単位）
- 優先度
- 問題
- 残存コスト
- 残存工数（時間単位）
- 状態
- バージョンステータス

14. フィールドが [Selected Fields] リストに表示され、承認ページ上に表示されるフィールドを示します。[Title] と [Owner] のフィールド名はすでに [Selected Fields] リストに載っています。
15. [Next] をクリックします。
16. [Search] ドロップダウンリストから [Public Groups] を選択して、送信者のタイプを指定します。
17. [Public Group: All Internal Users from the Available Submitters] リストを選択し、[Add] をクリックします。
18. [保存] をクリックします。  
[The What Would You Like To Do Now?] ページが表示されます。
19. [Yes, I'd like to create an approval step now.] を選択します。
20. [Go!] をクリックして、[New Approval Step] ページを開きます。

承認プロセスが作成されます。次の手順で、承認手順を作成します。

### 承認手順の作成

承認プロセスが作成された後で、承認手順を作成し、詳細を指定します。たとえば、承認と拒否の手順を指定し、何人の承認者を指定できるかを設定します。

**重要:** これらの手順でリスト表示されるフィールドおよびオプションをすべて設定します。他のフィールド、およびこれらの手順に表示されるオプションのデフォルト値を保持します。

次の手順に従ってください:

1. [New Approval Step] ページの [Name] フィールドに「Final Version Review」と入力し、Tab キーを押します。  
[Unique Name] フィールドに自動的に「Final\_Version\_Review」が入力され、[Step] フィールドは 1 に設定されます。
2. [Next] をクリックします。
3. [All records should enter this step] を選択します。  
これは [Approval Process] 手順の既定の手順基準です。
4. [Next] をクリックします。
5. 以下の手順に従い、10 人までの既定承認者を指定します。
  - a. [Automatically assign to approver(s)] を選択します。
  - b. ドロップダウンリストから [Related User] を選択します。
  - c. 関連するユーザとして [Default Approver 1] を選択します。  
リストには最大 10 人まで承認者を追加できます。
  - d. [Add Row] をクリックし、[Related User] を選択します。

- e. [Default Approver 2] を選択して、2番目の既定承認者を選択します。  
上記手順を繰り返して、既定承認者 3～10 を追加できます。
  - f. 最初の応答に基づいて、[Approve] または [Reject] を選択します。
  - g. [保存] をクリックします。  
[The What Would You Like To Do Now?] ページが開きます。
6. [No, I'll do this later. Take me to the approval process detail page to review what I've just created.] を選択します。
  7. [Go!] をクリックして、続行します。  
[Requirement: Change Management Process] ページが開き、今まで定義された全承認プロセスが表示されます。

### 承認手順へのアクションの追加

承認プロセス手順が作成された後で、各手順のアクションを指定します。たとえば、以下のシナリオを想定してください。

- 要件オーナーは、[Requirement detail] ページで、[Submit for Approval] をクリックします。
- 承認者は、ポップアップダイアログボックスでドラフトに対して [Approve] または [Reject] のいずれかをクリックする

[Requirement: Change Management Process] ページには全承認プロセスが表示され、送信および承認手順アクションを定義するセクションがあります。

**重要:** これらの手順で定義されたフィールドおよびオプションはすべて必須です。

次の手順に従ってください:

1. [Initial Submission Actions] セクション内の [Add Existing] をクリックします。
2. [Search] ドロップダウンリストから [Field Update: Draft Submitted] を選択します。
3. [追加] をクリックします。
4. 変更を保存します。

[Requirement: Change Management Process] ページが表示されます。

5. [Final Approval Actions] セクションにスクロールします。
6. [Record Lock] アクションの [Edit] をクリックします。
7. [Unlock the record for editing] を選択し、[Save] をクリックします。
8. [Add Existing] をクリックし、[Search] ドロップダウンリストから [Field Update] を選択します。
9. [Available Actions] リストから [Field Update: Draft Approved] を選択します。
10. [追加] をクリックします。
11. 変更を保存します。

12. [Final Rejection Actions] セクションにスクロールします。
13. [Add Existing] をクリックし、[Search] ドロップダウンリストから [Field Update] を選択します。
14. [Available Actions] リストから [Field Update: Draft Rejected] を選択します。
15. [追加] をクリックします。
16. 変更を保存します。

要件の承認プロセスは現在、確認とアクティブ化を行う準備ができました。

## 承認プロセスの確認およびアクティブ化

アクションが承認手順に追加された後で、承認プロセスを確認しアクティブにします。手順とアクションを確認し、必要に応じてそれらを変更します。承認プロセスをアクティブにした後は、手順またはアクションを変更できません。

次の手順に従ってください:

1. [Requirement: Change Management Process] ページの [View Diagram] をクリックし、承認プロセスのワークフロー図を確認します。
2. 承認手順またはアクションを変更するには、以下の手順に従います。
  - a. 図を閉じて、[Requirement:Change Management Process] ページに戻ります。
  - b. [Edit] をクリックし、必要な変更を加えます。
  - c. 変更を保存します。
3. [Activate] をクリックして、プロセスを有効にします。

これで承認プロセスがアクティブになりました。

## 要件変更管理の有効化

要件の承認プロセスをセットアップし、アクティブにした後で、ユーザが参加できるように、[要件変更管理] を有効にします。

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[設定] から [グローバル設定] をクリックします。
2. [要件変更管理] チェックボックスをオンにします。
3. 変更を保存します。

[要件変更管理] を正常にセットアップしました。初めて変更管理を有効にする際に、既存の要件は変更管理に移行されます。すべての既存の要件のステータスが [ドラフト] になり、要件のバージョン番号は 0.0 と表示されます。

## 要件の変更管理の無効化

要件の変更管理を無効にして、承認プロセスの使用を中止します。要件に対して変更管理を無効にすると、バックグラウンドジョブによって、保留中の要求がすべて自動的に承認されます。

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[設定] から [グローバル設定] をクリックします。
2. [要件変更管理] チェックボックスをオフにします。
3. 変更を保存します。

バックグラウンドジョブは、承認用にサブミットされた要件の承認を開始します。ジョブが完成すると、ユーザは電子メール通知を受信します。承認済みの要件に関して、以下の変更が発生します。

- 承認済み要件のバージョン番号の変更が、フルバージョン番号単位になります。
- [承認履歴] セクションが、[要件の詳細] ページから削除されます。

## 結合されたレポートを生成するための設定

2つのレポートを結合して単一のレポートを生成できます。たとえば、ユーザストーリー所有者レポートとタスク所有者レポートを結合し、スプリント作業割り当てレポートを生成します。2つ以上のレポートを結合するには、以下を設定します。

- レポートビルダのアップグレードを有効にします。
- 新しいユーザインターフェーステーマを有効にします。

次の手順に従ってください:

1. 管理者として CA Clarity™ Agile にログインし、[セットアップ] をクリックします。
2. レポートビルダのアップグレードを有効にします。
  - [Customize] をクリックし、[Reports and Dashboards] から、[User Interface] をクリックします。
  - [Report Builder Upgrade] セクションの [Enable] をクリックします。
3. 新しいユーザインターフェーステーマを有効にします。
  - [Customize] をクリックし、[User Interface] をクリックします。
  - [Enable New User Interface Theme] を選択します。
4. 変更を保存します。



# 第3章：サードパーティ統合

---

以下の製品と統合できます。

- CA Clarity™ PPM。従来のプロジェクト管理プロセスに準じる一方で、Agile 環境で要件を作成および管理できます。
- JIRA。ユーザストーリーおよび問題を一箇所から管理します。各ユーザストーリーの問題に関するバックログおよびレポートで、問題を追跡します。
- HP Quality Center (Quality Center)。各ユーザストーリーから製品品質を直接追跡します。
- コードパッケージ履歴および変更を追跡する CA Software Change Manager (CA SCM)。

他の製品との統合の詳細については、「CA Clarity™ Agile 統合ガイド」を参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[他の製品との統合の有効化 \(P. 53\)](#)

[他の製品との統合の無効化 \(P. 55\)](#)

[CA Clarity™ Agile 製品を Quality Center 製品にマップします。 \(P. 55\)](#)

## 他の製品との統合の有効化

以下のツールとの統合を有効にできます。

- JIRA
- HP Quality Center
- CA Software Change Manager

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[設定] から [グローバル設定] をクリックします。  
[グローバル設定] ページが表示されます。
2. 統合を有効にする製品を選択します。

### JIRA との統合

JIRA との統合が有効かどうかを指定します。このチェック ボックスがオンの場合、JIRA からインポートされる問題の [詳細] ページに [JIRA で表示] フィールドが表示されます。

#### JIRA URL

Issue Sync Service を使用して JIRA で作成され CA Clarity™ Agile にインポートされた問題に対して、JIRA サーバの URL を定義します。問題が JIRA と同期される場合、問題の [詳細] ページ上の [JIRA で表示] フィールドは、この URL を表示します。CA Clarity™ Agile にログイン中に、この URL をクリックして、JIRA で問題を表示できます。

例: <http://jira.ca.com/browse/> (ここで、*jira.ca.com* はホスト名を表わし、*browse* は問題が存在するディレクトリを表わします)。

### Quality Center との統合

Quality Center との統合が有効かどうかを指定します。

### CA Software Change Manager との統合

CA Software Change Manager (CA SCM) との統合が有効かどうかを指定します。CA SCM と統合して、ユーザストーリーに関連するパッケージに関する情報を表示できます。

**重要:** 統合を実行するには、CA Software Change Manager をインストールして設定します。「*CA Software Change Manager Implementation Guide*」および「*CA Software Change Manager Administration Guide*」を参照してください。

### 要件変更管理

[要件変更管理] が有効かどうか指定します。選択すると、CA Clarity™ Agile で承認の要件変更要求をサブミットすることができます。

**注:** これは製品統合ではありません。

3. 変更を保存します。

## 他の製品との統合の無効化

いつでも、他の製品との統合を無効にできます。

注: [統合] ページで統合オプションをオフにしても、ツールに関連するフィールドが非表示になるだけです。このアクションは、バックグラウンドで実行される同期ジョブに何の影響も及ぼしません。パッケージ、問題およびケースは、ツールから継続して更新されます。統合を完全に無効にするには、他の製品から同期ジョブを無効にします。

詳細については、「CA Clarity™ Agile 統合ガイド」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[設定] から [グローバル設定] をクリックします。
2. 該当するチェック ボックスをクリアします。
  - JIRA との統合
  - Quality Center と統合
  - CA Software Change Manager との統合
3. 変更を保存します。

## CA Clarity™ Agile 製品を Quality Center 製品にマップします。

Quality Center プロジェクトに CA Clarity™ Agile 製品をマップする前に、QC 統合を有効にするように CA Clarity™ Agile を設定します。

プロジェクトをマップした後に、Quality Center でこのプロジェクトを削除すると、このプロジェクトは CA Clarity™ Agile のマッピングリストから削除されます。

次の手順に従ってください:

1. [管理] をクリックし、[アプリケーション] から、[製品] をクリックします。  
[製品] ページが表示されます。
2. [新規製品] をクリックするか、または既存のプロジェクトの [詳細] をクリックします。

---

**CA Clarity™ Agile 製品を Quality Center 製品にマップします。**

---

3. [HP Quality Center] セクションで、[この製品のマップ先] ドロップダウンから [Quality Center] プロジェクトを選択します。
4. 変更を保存します。

# 第4章：データのインポート

---

Force.com によって提供される Data Loader を使用して、データを一括してインポートできます。データのインポートには、CSV ファイルを使用してください。Data Loader をダウンロードするには、管理者またはスーパーユーザの権限が必要です。

**注：**文書化された時点で、以下の手順は正確でした。ただし、Data Loader は Force.com のアプリケーションであるため、Force.com によるアプリケーションの変更によって、この手順が使用できなくなる場合があります。

次の手順に従ってください：

1. ヘッダで [セットアップ] をクリックします。  
Salesforce.com の [Setup] ページが表示されます。
2. [Administration Setup] メニューで [Data Management] をクリックします。  
[Data Management] ページが表示されます。
3. [Data Management] セクションで、[Download the Data Loader] をクリックします。
4. Data Loader のインストール
5. Data Loader を開始し、[Cancel] をクリックして [Welcome] ページをクローズします。
6. [Settings] をクリックし、[Settings] を選択します。  
[Settings] ウィンドウが表示されます。
7. 以下の情報を入力して、[OK] をクリックします。

**サーバ URL**

<https://login.salesforce.com>

**プロキシホスト**

会社のプロキシの詳細

**プロキシポート**

会社のプロキシポート

**プロキシ ユーザ名**

会社のプロキシユーザ名

**プロキシ パスワード**

会社のプロキシパスワード

8. ユーザ名とパスワードを使用してログインします。

**注:** 参照オブジェクトの ID を取得するか、詳細ページで ID を表示するには、オブジェクトをエクスポートし、ID カラムを参照します。

# 付録 A: CA Clarity™ Agile プロファイル

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Agile/Requirements スーパーユーザ](#) (P. 59)

[Agile/Requirements ユーザ](#) (P. 60)

[Agile スーパーユーザ](#) (P. 61)

[Agile ユーザ](#) (P. 62)

[Requirements スーパーユーザ](#) (P. 62)

[Requirements ユーザ](#) (P. 63)

## Agile/Requirements スーパーユーザ

このプロファイルを持つユーザは、CA Clarity™ Agile データに対する管理者権限を持っていますが、Force.com オペレーティング環境に対する管理者権限は持っていません。

スーパーユーザは、以下を表示、作成、編集、削除できます。

- ユーザ
- エピック
- 機能
- かんばんボード
- 製品
- リリース
- 要件
- ロール
- スプリント
- ユーザストーリー
- タスク
- チーム
- テーマ

## Agile/Requirements ユーザ

このプロファイルを持つユーザには、以下のタスクを行う権限があります。

以下の表示、作成、編集、削除。

- エピック
- 機能
- 製品
- リリース
- 要件
- ユーザストーリー
- タスク
- チーム
- テーマ

## Agile スーパーユーザ

このプロファイルを持つユーザは、 [管理] メニューにリストされている フィーチャーを使用して、以下のタスクを実行できます。

製品メンバシップに関わらず、以下を表示、作成、編集、または削除できます。また、スーパーユーザには、チームのメンバであれば、その製品に参加する権限があります。

- ユーザ
- 製品
- リリース
- スプリント
- チーム

製品チーム内であれば、以下を表示、作成、編集、または削除できます。

- エピック
- かんばんボード
- タスク
- テーマ
- ユーザストーリー

## Agile ユーザ

このプロファイルを持つユーザには、以下のタスクを行う権限があります。

以下の作成、編集、削除。

- エピック
- タスク
- チーム
- テーマ
- ユーザストーリー

以下の詳細の編集。

- ユーザ
- 製品
- リリース
- スプリント

Agile ユーザが選択できるのは、自分がメンバである製品のみです。

## Requirements スーパーユーザ

このプロファイルを持つユーザは、要件データに対する管理者権限を持っていますが、Force.com のオペレーティング環境に対する管理者権限は持っていないません。 Requirements スーパーユーザは、[管理] メニューにリストされているフィーチャーを使用して、以下のタスクを実行できます。

- ユーザ、ロール、ペルソナの追加。
- 以下の作成と管理。
  - 機能
  - 製品
  - リリース
  - 要件

## Requirements ユーザ

このプロファイルを持つユーザは、以下のタスクを実行できます。

以下の作成と管理。

- 機能
- ペルソナ
- 製品
- リリース
- 要件

製品が割り当てられたユーザは Agile ページを表示し、Agile メニューから以下のいずれかのタスクを行うことができます。

- テーマの作成、編集、削除。
- ユーザストーリーおよびタスクの作成、編集、管理。
- スクラムチームの編集。
- スプリントへの参加。



# 付録 B: CA Clarity™ Agile Team Edition から Enterprise Edition へのアップグレード

---

旧リリースからのアップグレードの詳細については、そのリリースの「実装ガイド」を参照してください。

1. [support.ca.com](http://support.ca.com) を開きます。
2. [Product Finder] から CA Clarity™ Agile を選択します。
3. [Bookshelves] をクリックします。
4. 該当リリースのマニュアル選択メニュー リンクをクリックします。
5. [Product Documentation] セクションにスクロールします。
6. 実装ガイドを見つけます。